

所属・氏名(総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名:河村あゆみ)

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(学術論文) 大学生が語る幼少期の絵本 体験とその共有についての 考察	単著	2024 年	医療工学雑誌, (18), 9-23.	大学の授業において大学生によって語られた 幼少期の絵本体験 7 回分の記録を分析し、検 討を行った。結果、絵本の読み手との関係性 が、絵本に関するエピソードの形成に影響を 与える可能性が示唆された。また、絵本を軸 として幼い頃の多様なエピソードが語られ、 それらを共有できたことで、幼少期の子ども のイメージや絵本の知識を広げるという目的 に貢献するものであったと考えられた。(総ペ ージ数:15)
2	(学術論文) 読み聞かせを支える絵本のこ とばの質の検討《筆頭論文》	共著	2022 年	福岡教育大学特別 支援教育センター 研 究 紀 要 ,(14),31- 39.	絵本の読み聞かせ活動は、特別支援学校にお いても積極的に行われており、教育的効果が報 告されている。その活動の質を確保するため には、蔵書数の量と共に絵本の質の確保が重要 である。質の良い絵本とは何かについて、言語 的側面のなかでもオノマトペに焦点を当てて検 討を行った。(総ページ数:9) (河村あゆみ、馬場美友)
3	(報告・発表) 発達特性のある幼児を対象と したわらべうた遊びグループ 実践の試み	共著	2025 年 6 月	第 51 回日本コミュ ニケーション障害学 会学術講演会、コミュ ニケーション障害学, 42(3), 150-150.	わらべうた遊び実践によって、ことば・コミュ ニケーションに支援ニーズを持つ幼児のことば・コ ミュニケーションにどのような変化がみられたか ついて結果を検討し報告した。 (河村あゆみ、大本美智子、西川博子)
4	(報告・発表) ことば・コミュニケーションの発 達支援に寄与するわらべうた の特性についての検討	共著	2024 年 6 月	第 50 回日本コミュ ニケーション障害学 会、コミュニケーション障 害学, 41(3), 171-171.	わらべうたが発達支援においてどのように寄与 するかについて検討を行うため、支援者を対象 にわらべうた研修会を全 5 回実施し、特別支援 ニーズのある児童への実践を行なった結果を 検討し報告した。 (河村あゆみ、大本美智子)
5	(報告・発表) ワーキングメモリの弱さがある 中学生への英単語読み 学習支援事例	共著	2023 年 12 月	日本ワーキングメモ リ学会第 20 回大会	読み書き障害のある中学生を対象として、あ いうえおフォニックスに基づく英単語の読み 学習支援を行った経過を報告した。 (河村睦、河村あゆみ、中山健)
6	(報告・発表) 特別支援学校(知的障害) 教師と言語聴覚士を目指す学 生の資質向上に向けた共同 教材作り	共著	2023 年 7 月	第 49 回日本コミュ ニケーション障害学 会、コミュニケーション障 害学, 40(3), 210-210.	音声言語が未獲得または、2 語文程度の児童 に発語を促すための教材作りが学生の資質 向上にどのように影響するかを検討した結果 を検討し報告した。 (大本美智子、河村あゆみ)

令和 8 年 5 月 1 日 現在